

○金融危機に根本対策が必要

アメリカの住宅金融バブルがはじけて、世界中が戦々恐々、縮み上がっています。アメリカでは、住宅ローンの中でも、低所得者むけの信用度の低いサブプライムローンと言われる貸付に、多くの焦げ付きが発生しています。さらに、住宅金融会社が住宅ローンを証券化して、売り出し、金融機関がこれを一部組み込んでファンドを組み立て、一般に販売していることが、世界中の信用不安を誘発しました。先日、アメリカの住宅金融会社最大手のカントリーワイド社が資金繰りに行き詰まり倒産の危機に陥りました。その時は中央銀行が金利を下げて、事なきを得ました。しかし、金融界は疑心暗鬼、信用不安が住宅ローンを組み込んだファンドだけではなく、企業買収などのファンドやインターバンク(銀行間の短期資金調達市場)市場などにも感染して、世界の株価を暴落させました。天下のゴールドマンサックスまでもが、危ないと言われたのです。安い金利の日本から円を持ち出して(円売り)企業買収などの資金にしていたファンド(円キャリー)もここで流れを逆転させて資金を日本に戻してきた(円買い)ことから、円レートが 113 円台の円高の流れになっています。日本経済が好調だったのは、これまでの円安に支えられた自動車、電機などの輸出関連企業がリードしてきたと言うことですから、ここに来て円高は、こうした企業の株価を直撃して日本の株式市場も全面安となりました。

金融市場は最近小康状態ですが、金融危機の原因を作ったアメリカのサブプライムローン問題は、根本的な解決はなされていません。各国の中央銀行の連携により、前代未聞の資金供給でジャブジャブにしただけのことですから、対処療法にとどまっています。日本でも、私達が危機意識を持って、世界の金融と通貨の健全なあり方を考える事が、大事な時代になってきています。

○張り切って地元の課題に挑戦

臨時国会は、9月の10日に召集されます。民主党の人事は31日に決まる予定です。私も今度は国対から政策分野へ戻りたいと希望を出しています。衆議院の解散は、来年の夏前、どの分野に落ち着こうと、しっかり頑張ります。

国会の仕事と同時に、4つの地元課題を抱えて奮闘しています。一つは、民間企業や人材を生かす事で、協力を引き出して、公立高等学校に思い切った特色を出していけないか。例えば、トヨタ自動車がトヨタ学校を作ったように、亀山高校などを、シャープ高校に出来ないか。また、工業立地の進展をテコに、関西線などの本格的な複線電化で鉄道を見直し、駅周辺の土地利用の計画作りで新たな街づくりへの方向付けができるのではないかと。増加する外国人労働者と地域社会の共生を進めるために、市やボランティアグループが頑張っている。そのコストを受け入れ企業に負担してもらうための県主導の民間基金造成をめざす。鈴鹿地域の養護学校通学児童の長時間バス通学の負担を解消することと、周辺校の定員調整のために、地域に養護学校を設立する事。

どれも、切実な市民の運動と結び付いています。地域が何をしたいか、具体的な目標が決まれば、それを実現するための知恵を出すのも、私達政治家だと思っています。

○一夏の貴重な体験

お盆休みは、痛さとの戦いになりました。不覚にも痔を患い、思い切って手術。恥ずかしさに耐えて、看護師さんの優しさ感謝する10日間。日本の医療制度を患者の立場からあれこれ考えるきっかけになりました。それにしても、後から聞けば、私と同じ苦しみでオシリを切るはめになった人の多いこと。これは、職業病?国民病?